

天皇と皇子の敬称

飛鳥・奈良時代から律令制度が整い、文字表記において人の身分に応じた敬称の表記が定まってきました。その一例が有名な人の死の表記で、三位以上が「薨」、五位以上が「卒」、それ以下が「死」の漢字表記を使い分けるとする律令での規定です。

私は、敬称で身分を明らかにする、この規定が万葉集の歌にも影響を及ぼしていると思っています。そこで、万葉集の歌について対象者(天皇や皇子)、歌が詠われた時の生没、歌での敬称、万葉集の歌番号について調べてみました。それが、次のリストです。

万葉集での各天皇及び重要な皇子の呼称

人物	時期	表記	歌番号
舒明天皇	生前	八隅知之 我大王乃 朝庭	集歌 3
	生前	遠神 吾大王乃 行幸能	集歌 5
中大兄	生前	中大兄 (特殊例 標での表記)	集歌 13
天智天皇	死没	大王乃 御寿者長久	集歌 147
	死没	八隅知之 吾期大王 大御船	集歌 152
	死没	八隅知之 和期大王 恐也	集歌 155
天武天皇	死没	八隅知之 吾大王 暮去者	集歌 159
	死没	八隅知之 吾大王 高照 日之皇子	集歌 162
	死没	高照 日之御子	集歌 162
	死没	神下 座奉之 高照 日之皇子波	集歌 167
	死没	神随 太布座而 天皇之 敷座國等	集歌 167
持統天皇	生前	八隅知之 吾大王之 所聞食	集歌 36
	生前	安見知之 吾大王 神長柄 神佐備世須登	集歌 38
	生前	吾大王 高照 日之皇子	集歌 45
	生前	八隅知之 吾大王 高照 日乃皇子	集歌 50
	生前	八隅知之 和期大王 高照 日之皇子	集歌 52
	生前	皇者 神二四座者	集歌 235
	生前	八隅知之 吾大王 高輝 日之皇子	集歌 261
元明天皇	生前	天皇乃 御命畏美	集歌 79
	生前	吾大王 物莫御念	集歌 77
	生前	八隅知之 和期大皇 高照 日之皇子之	集歌 3234
重要な皇子の尊称			
草壁日並皇子尊	死没	吾王 皇子之命	集歌 167
	死没	高光 我日皇子	集歌 171
	死没	高光 吾日皇子乃	集歌 173
高市後日並皇子尊	死没	八隅知之 吾大王乃 所聞見為	集歌 199
	死没	吾大王 皇子之御門乎	集歌 199
	死没	吾大王乃 萬代跡	集歌 199
	死没	我王者 高日所知奴	集歌 202
忍壁皇子	生前	王 神座者	集歌 235 別
	死没	安見知之 吾王 高光 日之皇子	集歌 204
弓削皇子	生前	王者 神西座者	集歌 205
	生前	八隅知之 吾大王 高光 吾日乃皇子乃	集歌 239
長皇子	生前	吾於富吉美可聞	集歌 239
	生前	我大王者	集歌 240
	生前	皇者 神尔之坐者	集歌 241
石田王	死没	吾大王者 隠久乃	集歌 420
	死没	君之御門乎	集歌 3324
	死没	吾思 皇子命者	集歌 3324

	死没	皇可聞	集歌 3325
長屋王	生前	安見知之 吾王乃 敷座在	集歌 329
	死没	大皇之 命恐 大荒城乃	集歌 441
安積皇子	死没	吾王 御子乃命	集歌 475
	死没	吾王 天所知牟登	集歌 476
	死没	挂卷毛 文尔恐之 吾王 皇子之命	集歌 478
	死没	皇子乃御門乃	集歌 478
	死没	皇子之命乃	集歌 479
志貴親王	死没	天皇之 神之御子之	集歌 230

このようにリストにしますと、普段の解説にある歴史上の人物と万葉集での重要な人物が違うことに気付かれると思います。有名人ではない石田王は、弓削皇子と紀皇女との間の御子と思われる人物ですが、歴史では闇の中の人物です。次に安積皇子は、聖武天皇の御子で、場合により暗殺されたとする人物です。

最初に、天皇に使われる敬称の表記を見てみますと、原則、「八隅知之 吾大王」や「高照 日之皇子」の敬称を使っています。持統天皇の敬称で大嘗祭の前の「高輝 日之皇子」の敬称表記がありますが、大嘗祭の後では「高照 日之皇子」の敬称です。つまり、「八隅知之 吾大王」や「高照 日之皇子」の敬称があれば、天皇の位にあったと推定できるのではと思っています。

次に皇太子に使われる敬称の表記を見てみます。確実に皇太子であったと確認できるのが草壁皇子尊ですから、彼の敬称を見てみます。その敬称は「吾王 皇子之命」と「高光 吾日皇子」ですから、他の人物にこの敬称が使われていた場合、その人物は皇太子に相当する人物と見做せる可能性があります。

私は、飛鳥・奈良時代に役人が高貴な人物について挽歌や寿歌を詠う場合、その高貴な人物の敬称に規定があったと考えますと、統計学のルールに拠らずに参照にするサンプル数が少なくても、横への類推の展開が可能と考えます。つまり、身分制度を基準とした律令政治において、その身分を表す敬称に一定のルールがあるとすれば、特定のサンプルで類推の展開は可能とする立場です。

万葉集から見た皇太子の系譜

草壁皇子 - 高市皇子 - 石田王 - 安積皇子

万葉集から見た太政大臣の系譜

高市皇子 - 弓削皇子 - 長皇子 - 長屋王

この皇子たちの内、人麻呂が関係するのは、草壁皇子、高市皇子、弓削皇子、石田王、長皇子です。そして、大伴旅人が関係すると思われるのが、長屋王と安積皇子です。なお、高市皇子の敬称「吾大王 皇子之御門乎」は天皇と皇太子の間のようなものですから、非常に微妙な敬称です。

敬称から類推すると、大嘗祭を竟えた天皇は御威光で天上まで世界を照らすますが、大嘗祭を迎える天皇は御威光で自身が眩いほどに輝くだけのようです。そして、日の皇子は御威光で自身が光るだけのようで、周囲を明るくするまでにはいかないようです。

遊びの連想ゲーム

赫奕姫 光り輝く皇女(ひめみこ) 舞ひを披露する皇太子の皇女 阿倍内親王

赫 輝き明らかなさま

奕 舞うさま、美しいさま

赫奕 光り輝くさま